

KÄRCHER NEWS

ケルヒャーニュース

12 | 2020



新型コロナにケルヒャーの
高温スチーム技術
Thank Your Cleaner Day 2020

› Page 3

オンライン発注システムを
アップデート

› Page 4

各国のお掃除事情を徹底調査
「世界掃除アンケート調査」

› Page 6

ご挨拶



平素よりケルヒャー ジャパンをお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

2020年7月1日より代表取締役社長に就任したマーク・ヴァン・インゲルゲムでございます。日頃より、当社製品へのご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

現在、世界のあらゆる場所で新型コロナウイルスの影響が出ています。まずは感染の影響を受けられた方々に心よりお見舞いを申し上げます。また、医療従事者、そしてそれを支える多くの方々、とりわけ、清掃に従事される方々に感謝と尊敬の意を表します。

「with コロナ」という新たな生活様式への転換が求められている中、衛生管理に対するニーズはこれまで以上に高くなっています。加えて日本では「少子高齢化」「働き方改革」「環境への対応」など様々な社会課題を抱え、コロナ対策と併せて社会全体が大きな転換期を迎えていると感じています。このように社会の価値観が急転する中で、清掃活動に対する考え方、そして清掃業界の位置づけも大きく変化してきています。私たちはこうした社会課題や時代のニーズを的確に捉え、清掃機器専門メーカーならではの技術力、ノウハウ、そして、グローバル市場で培った知見を活かし、日本のお客様の生活様式に合う、より革新的で利便性の高い製品サービスを提供してまいります。

2020年はコロナによる影響が厳しい年でしたが、日本市場により深く弊社の製品・サービスを浸透させることができた1年でした。業務用分野においては、新たな大型施設として、清掃業界初の複合型施設となる「ケルヒャー インダストリアルショールーム横浜」を開設しました。同施設では製造業、食品加工業などで使用される産業用清掃システムや、建設業向け超高压洗浄機、そして、公共施設向けロードクリーナーなどの大型清掃機器を常設展示しています。また、保守点検を行うサービスルームに加え、製品トレーニングや清掃関連のセミナーを行う研修センターを併設し、お客様へのサービスも開始しました。

家庭用分野では、「日本の住環境に適した清掃機器の開発」を目指し進めている「Japan プロジェクト」の初の製品として「家庭用高压洗浄機 K MINI」を発売し、計画を上回る進捗で販売することができました。

2021年も「カスタマーセントリック:お客様中心主義」をモットーに、お客様のニーズや環境の変化に素早く対応し、人々が安心安全に暮らせる社会の実現を目指し、「清掃」という観点から革新を起こせる企業を目指してまいります。

今後とも、皆様の一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

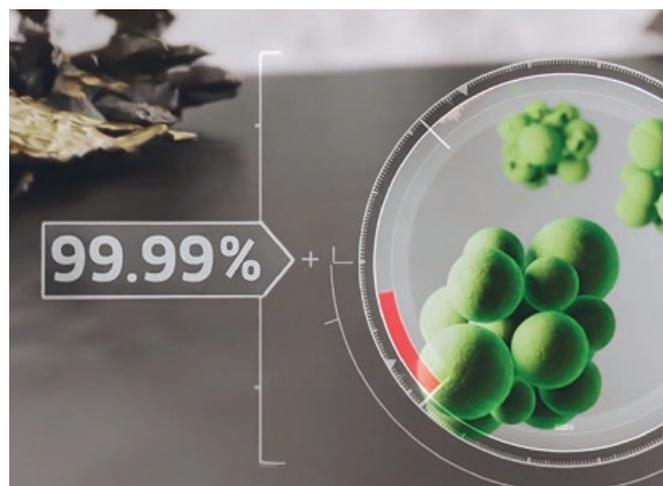
代表取締役社長
マーク・ヴァン・インゲルゲム

新型コロナウイルスにケルヒャーの高温スチーム技術

今年3月、ドイツのケルヒャー社は第三者機関のエンダース&パートナーズ研究所でウイルス除去試験を行いました。試験は、コロナウイルスやインフルエンザなどのエンベロープウイルスの代表格であるテスト用代替ウイルスに、ケルヒャーの高温スチームを最大温度と圧で30秒間噴射するというものでした。その結果、上記手順のようにケルヒャーの高温スチーム技術が正しく使われた場合、テスト用代替ウイルスを99.999%除去し、かつ一般的な家庭に在来するバクテリアを99.99%除菌*できることが判明しました。

ケルヒャーの高温スチーム技術が、ご家庭や商業施設・産業施設での衛生管理の一助となることが期待されています。

*第三者機関調べ



清掃に携わる方々に感謝を伝えよう Thank Your Cleaner Day 2020

「Thank Your Cleaner Day」は、清掃業関係者の地位向上と感謝の気持ちを伝えることを目的に、2015年にニュージーランドのビルメンテナンス協会がスタートさせたイベントです。ケルヒャーは、イベント開始当時よりパートナーとして活動しています。

今年日本では、公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会に後援いただき、業界全体の取組みとして10月21日を皮切りに11月上旬まで実施しました。

イベント期間中、ケルヒャー ジャパンでは「ありがとう」と記した黄色のマスクを制作し、20以上の賛同企業・団体と一緒にマスクを着用。清掃関係者の方々に感謝を伝えました。また、本社の清掃を担当している方々に、感謝の気持ちとともに、「Thank Your Cleaner Day」仕様のケーキを贈呈しました。この取組みにご賛同いただいた参加企業・団体様からは、本活動の様子をFacebookやInstagramなどにハッシュタグ「#TYCD」をつけて投稿いただきました。



東急ファシリティサービス株式会社
ご担当者様へのプレゼント贈呈



横浜本社



仙台事業所

オンライン発注システム「インフォネット」をアップデートしました。

インフォネットは世界各国のケルヒャー法人で使用している、お取引様向け発注システムです。今回、お客様の声を元にシンプルで分かりやすい構成に刷新しました。インフォネットをご活用いただくと「電話やファックスで問い合わせることなく、価格・在庫・納品日が確認できる」、「カタログ・取扱説明書のダウンロードやユーザー登録ができる」、「インフォネットからのご注文は送料が無料」など様々なメリットがございます。この機会に新しくなったインフォネットをぜひご利用ください。



シンプルな構成になり、処理がスムーズに行えるようになりました

2020年発表 家庭用新製品

今年発売の家庭用新製品で注目を集めているのが、高圧洗浄機 K MINIです。日本の住環境や生活様式に合うデザイン、スリムで丈夫な高圧ホース、コンパクトに収納できるスマート設計といった特長が高く評価され、2020年度グッドデザイン賞を受賞しました。また、お客様の清掃ニーズを満たすスチームクリーナー SC 3 EasyFixとSC 3 EasyFixプレミアムは「簡単に、すぐに」「連続して」「除菌できる」のが特長です。窓用パキュームクリーナー WV 1 プラス LR、WV 1 プレミアム LRは、倒れにくい形状やワイブパッドの裏全面がマジックテープになるなど、利便性が進化しています。新感覚の散水スプレーガン WBS 3は、直噴と回転の2つのジェットを備え、汚れ落としの効率性を高めています。



高圧洗浄機 K MINI



「ケルヒャー インダストリアルショールーム横浜」開設

今年4月13日、清掃機器業界初となる複合型施設「ケルヒャー インダストリアルショールーム横浜」がオープンしました。この施設では、工場や公共施設向けの大型清掃機器・設置型製品のデモンストレーションに加えて、清掃に関するセミナーや製品研修、機器のメンテナンスなどのサービスを提供しています。また、同施設に移転した横浜営業所によって営業・マーケティング機能も備えています。

ショールームの主な展示品は、セントラルパキュームシステム、タンククリーニングシステム、セントラル洗浄システム、超高压ポンプ、多目的作業車など。これまではお客様先に導入するまで稼働状況が確認できなかった組み込み型のシステムも、デモンストレーションによって製品の生産性、安全性、革新性がダイレクトに体感できるようになりました。

業務用製品のサービス拡充が、ケルヒャーのカスタマーセントリック（顧客中心主義）の具現化を一層推進しています。



「ケルヒャー インダストリアルショールーム横浜」外観

持続可能な社会の実現に向けた CSR 活動

ケルヒャー ジャパンでは、持続可能な社会への貢献として、地域に根づく活動を継続しています。

今年は新型コロナウイルスの影響による衛生環境保持の一助として、本社所在地の横浜市港北区にある放課後児童クラブ（学童保育）31 箇所に家庭用スチームクリーナーを寄贈しました。寄贈した施設からは「小学校高学年の子が楽しみながらお掃除しています。思っていたより簡単にきれいに使えます」という声が寄せられました。

また「令和 2 年 7 月豪雨」で被災した熊本県、福岡県、大分県の自治体に、汚泥除去後の洗浄用として高圧洗浄機と乾湿両用掃除機の無償供与を行いました。被災した業務用のお取引様には、業務用製品の無償貸与や業務用清掃機器を用いての清掃支援も実施しました。

なお、昨年の台風 19 号襲来の際に実施された被災各地への製品の寄付や清掃支援活動について、今年 2 月には社会福祉法人坂戸市社会福祉協議会（埼玉県）から、また 7 月には社会

福祉法人丸森町社会福祉協議会（宮城県）から感謝状をいただきました。

ケルヒャー ジャパンでは、今後も災害発生時に率先して被災者の支援に取組み、復興・復旧の一助となるよう貢献してまいります。



横浜市港北区放課後児童クラブに寄贈された、家庭用スチームクリーナー SC 2 プレミアム



洗浄作業に使用された、業務用冷水高圧洗浄機 HD 4/8 P

サステナビリティターゲット 2025 活動宣言

国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は、より良い世界を目指し、2030年までに達成するべく掲げられた国際目標です。ケルヒャーグループは、SDGs達成のための活動指針として「サステナビリティターゲット2025」を策定。2025年までに達成する3つの目標を定め、具体的な取組みを進めています。



ゼロ・エミッション

CO₂排出ゼロを達成するために、2021年から全工場でクリーンエネルギーを使用します。またドイツ国内外への出張を減らし、交通機関利用で発生するCO₂の排出を抑制します。



リデュース、リユース、リサイクル

循環型社会の実現に向けて、ごみの削減、再利用、再資源化を促進します。具体的には、2025年までに全製品のプラスチック梱包の廃止、家庭用高圧洗浄機の再生プラスチックの含有増量（最大50%）、シェアリング・サービス・リサイクル等のビジネスモデルの確立を実現します。さらに海洋プラスチックによる汚染を削減するために、2020年から環境保護団体「One Earth One Ocean」と協力し、活動を支援します。



ソーシャル・ヒーロー

「清掃・衛生」「環境・素材」「家族・社会課題」をキーワードに、社会貢献活動を行います。具体的には、文化事業に対する協賛や、「SOS子どもの村」を通じた寄付活動等を行います。また、サプライヤーの評価において「サステナビリティ」を最重要の決定因子とするリスクマネジメントシステムを2025年までに確立します。



イギリスのバンベリーでは、1,000枚弱のソーラーパネルを一挙に設置して子会社の年間消費電力の44%を太陽光で発電することに成功

各国のお掃除事情を徹底調査 「世界掃除アンケート調査」

ケルヒャーグループは、世界各国の清掃習慣や掃除に対する意識を調べるために、ドイツ・フランス・イギリス・オランダ・ベルギー・ポーランド・ロシア・ブラジル・アメリカ・中国・日本の11ヶ国に居住する18～65歳の男女11,099名を対象に「世界掃除アンケート調査」を行いました。3つの質問からなるアンケート調査によって、回答国の掃除に対する意識や、掃除道具の違いが浮き彫りとなりました。

最初の質問は、「あなたにとって家がきれいであることはどれほど重要ですか?」というものです。これに対し、回答者全体の92%が「重要」または「とても重要」と回答しました。最も高かったのはブラジルの98%で、続くロシアが97%。日本は78%で、平均を下回る低い数値となりました。「日本人はきれい好き」と言われますが、「家をきれいにしたい」という意識面では他国から学ぶことがありそうです。

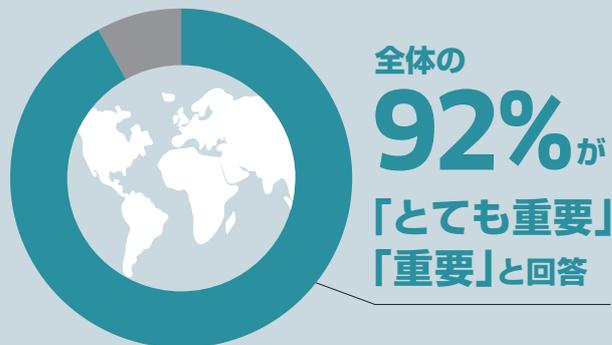
2問目は「一週間の中で、掃除に費やす時間はどれくらいですか?」という質問です。回答国の平均は2時間52分で、最長はロシアの4時間56分、次いでポーランドが3時間54分でした。日本は最短の1時間33分で、平均の約半分という結果になりました。

最後は「掃除にはどんな道具を使っていますか?」という質問です。この結果から、回答者の8割がほうきやブラシといった掃除道具を使用していることが分かりました。また国によってさまざまな特徴があり、日本は他国に比べてコードレスタイプの掃除家電の使用が多く、ブラジルではブラシやモップ、スクイージーを使ったクラシックな掃除スタイルが好まれることが分かりました。

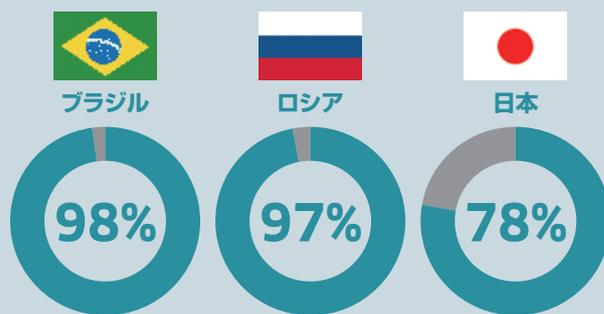
ところで3問目の回答で、掃除を「ストレス発散の手段」「瞑想に近い行為」と答える回答者が多い国がありました。この結果を受けて、オーストリアのストレス研究の権威であるブリジット・ボセンコフ博士に、掃除がもたらす心理的な影響について伺いました。博士によると、「掃除に没頭すると瞑想に近い精神状態になり、ストレスや疲労を和らげる」としており、掃除は精神的なリラックス効果のある行為であることが分かりました。掃除は身の回りの環境だけでなく、心も整えてくれる効果があると言えます。

Q あなたにとって家がきれいであることはどれほど重要ですか?

世界全体の結果



各国の結果



Q 一週間の中で、掃除に費やす時間はどれくらいですか?

世界全体の結果



Q 掃除にはどんな道具を使っていますか? (ほうき・モップ・掃除機・洗剤・ロボット)

使っている掃除道具は?



※複数回答

使っている洗剤は?



※複数回答

建築環境工学の専門家が教える 「現代の住環境で快適に暮らすコツ」とは？

現代の日本の家屋は家に断熱材が加わったことで、快適な温度を保てるようになりました。しかしその一方で室内は高湿度になりやすく、カビ・ダニの発生リスクが高まっています。現代の住宅で快適に暮らすにはどうすればよいのか。建築環境工学を専門とされる宮城学院女子大学 生活文化デザイン学科 本間義規教授に教えていただきました。

劇的に変化した現代日本の 家屋でカビ・ダニが発生！

この100年間を振り返ると、「世界中で日本ほど生活変化の激しかった国はない」といわれています。日本の家屋は、かつては石、土、紙、木、草などの天然素材を使い、茶の間や仏間など畳敷きの間取りで構成されていました。それが近年では、コンクリートの集合住宅、ダイニングキッチンが登場、畳からフローリングへと、次々と変化していきました。

さらに家電商品の大量普及が、住まいの構造を大きく変えました。その一例が、1952年に日本に登場したルームエアコンです。それまでの家は無断熱なので、エアコンをつけても快適な温度の空気が外に流れてしまいました。そこで、エアコンの効きを良くするために家の壁に断熱材を入れるようになったのです。断熱材のおかげで家の隙間から空気が出入りしにくくなり、少ないエネルギーで快適な室温が保たれるようになり

ました。しかし一方で、都市化に伴い洗濯物の室内干しが増えるなどして、室内の湿度が高く保たれるようになりました。これが、現代の住まいでカビ・ダニ発生リスクが高まっている要因のひとつとなっています。快適を求めて導入されたエアコンにも、高い湿度のせいでエレメント内にカビが繁殖するという事態が起きています。

日常的な清掃と換気で 室内環境を健やかに

家の中にカビ・ダニが増えると、住まう人の健康が脅かされるおそれがあります。全身に関わるさまざまな症状が現れるシックハウス症候群や、アレルギー症状などを引き起こす可能性があるのです。

そうした健康被害を予防する意味でも、日常的

な清掃は効果的です。家の中で発生する汚れは、最終的には床面に蓄積します。フローリングの溝には多くのカビが溜まっているという報告もあるため、床面の汚れを掃除機で丁寧に除去し、カビ・ダニ自体とその栄養分を断つことが大切です。また、家の中のダニの数はその家の湿度に依存していることから、適切に換気を行い、カビ・ダニの繁殖を抑制する湿度70%以下を保つことも有効です。この2つの対策が、現代の住居で健康的に住まう上での必要条件といえるでしょう。



おすすめ対策 from ケルヒャー

床面の清掃の際、掃除機の排気によって微細なカビやダニを拡散してしまう可能性があります。そこで、掃除機の後にケルヒャーのフロアクリーナー、スチームクリーナーなどで仕上げの清掃を。フローリングの溝の中まで汚れを強力に落とします。

また、カビの抑制に有効なのが窓用のバキュームクリーナーです。窓の結露をしっかりと除去し、カビが発生しにくい環境を保ちます。



監修：宮城学院女子大学 生活文化デザイン学科 本間義規教授

KÄRCHER

WOW!
キレイは
楽しい
心地いい。

BRING BACK THE WOW TO YOUR CASTLE

ケルヒャーは、これからの時代にフィットする
新しい清掃スタイルを追求。わくわくする清掃で、
安心・安全な暮らしを創造します。

kaercher.com/jp



スチームクリーナー
SC 3 EasyFix プレミアム

99.99%
除菌

NEW



スチームクリーナー
SC 3 EasyFix

99.99%
除菌

NEW

*第三者機関調べ